小　学　校

令和３年度

教育研究員研究報告書

特別の教科　道徳

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　研究の視点 ・・ 3

Ⅲ　研究仮説 ・・・ 3

Ⅳ　研究構想図 ・・・ 3

Ⅴ　研究内容 ・・・ 4

1　基礎研究 ・・・ 4

2　調査研究 ・・・ 6

3　実践研究

〈指導事例１：第２学年〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

〈指導事例２：第３学年〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

〈指導事例３：第６学年〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

〈指導事例４：第６学年〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

Ⅵ　研究のまとめ ・・ 16

研究主題

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める児童の育成

～自他の考えを大切にする指導方法の工夫～

Ⅰ　研究主題設定の理由

１　道徳を取り巻く状況について

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省　平成 28 年 12 月 21 日）では、「発達の段階に応じ，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え，向き合う『考え，議論する道徳』へと転換を図る」と示され、考え、議論する道徳科への質的転換が求められることになった。そして、学習指導要領が改訂され、従前の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」と表記）として新たに位置付けられ、小学校で約３年近く経過した。

「東京都教育ビジョン（第４次）」（東京都教育委員会 平成 31 年３月）では、「基本的な方針５　豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育」の項目で、「施策展開の方向性 13　生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む教育を充実します」の主な施策展開として小・中学校での「道徳教育の一層の充実」が示されている。

今年度、本研究員の所属校の児童・教員を対象に、道徳科に関する意識調査を実施した。「自分のことは好きですか」（図１）という質問項目に肯定的な回答をした児童の割合は65％であった。「東京都教育ビジョン（第４次）」でも示されているように、自分のことを大切だと思えないと、他の人の存在も大切だと思えず、思いやりの気持ちがもてないことが懸念される。

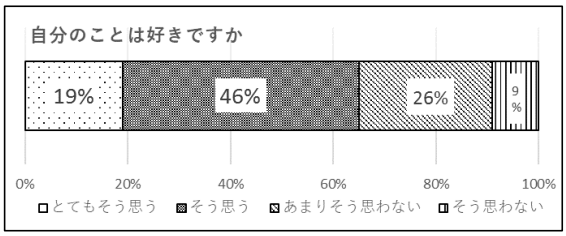


図１　［本研究実施意識調査，令和３年］

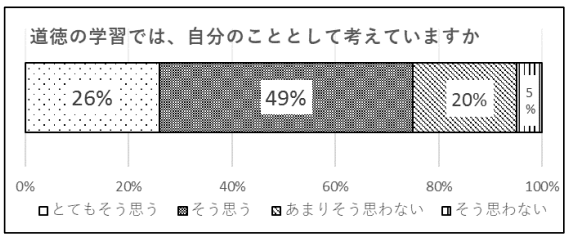


図２　［本研究実施意識調査，令和３年］

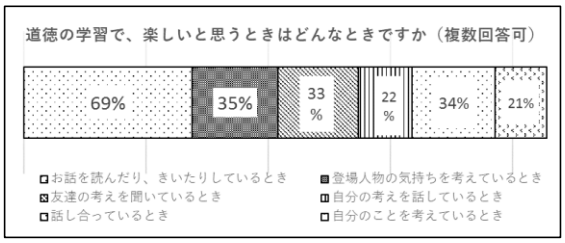


図３　［本研究実施意識調査，令和３年］

「道徳の学習では、自分のこととして考えていますか」（図２）の質問項目では、20％の児童が「あまりそう思わない」、５％の児童が「そう思わない」と回答した。また、「道徳の学習で、楽しいと思うときはどんなときですか」（図３）の質問項目では、「自分の考えを話しているとき」と「自分のことを考えているとき」と回答した児童が少なかった。この結果から、道徳科の授業において、児童が自己を見つめたり、教材を通して自己のこととして考えを深めたりすることができるように、指導方法を改善していく必要があると考えられる。

２　研究主題について

「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」（以下「道徳編」と表記）では「自己を見つめる」ことと「自己の生き方について考えを深める」ことについて以下のように示されている。

> 第２章　道徳教育の目標　　第２節　道徳科の目標　　２　道徳性を養うために行う道徳科の学習
>
> （2）自己を見つめる（一部抜粋）
>
> 自己を見つめるとは，自分との関わり，つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方，考え方と照らし合わせながら，更に考えを深めることである。このような学習を通して，児童一人一人は，道徳的価値の理解と同時に自己理解を深めることになる。
>
> （4）自己の生き方についての考えを深める（一部抜粋）
>
> 児童は，道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める過程で，同時に自己の生き方についての考えを深めているが，特にそのことを強く意識させることが重要である。
>
> 児童が道徳的価値の理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として，自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切である。

自己を見つめることは、「自己との関わりとして、つまりこれまでの経験や感じ方、考え方と照らして、更に考えを深める学習を通して、道徳的価値の理解と自己理解を深めることになる」こと。また、自己の生き方について考えを深めることは、「道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方について考えを深めていくことができるようにする」こと。これらに着目し、児童が自分との関わりで、更に考えを深め、道徳的価値の理解を基に、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方について考えを深められる学習を目指すこととした。

以上のことを踏まえ、研究主題を「自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める児童の育成」と設定した。

３　副主題について

「道徳編」において、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方について考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。」と示されている。このことから、道徳科の授業において児童が自己の生き方について考えを深める学習をするためには、ねらいとする道徳的価値について、児童が自己の課題として受け止め、学級の中で多様な感じ方や考え方から、より自己の確かな考えをもつことが大切と考える。

本研究では、児童が自己を見つめるためには、ねらいとする道徳的価値について児童が自分の課題として捉えること、自己の生き方について考えを深めるためには自己の考えと他者の考えを大切にしていくことが重要であると捉えた。

以上のことから、副主題を「自他の考えを大切にする指導方法の工夫」と設定した。

Ⅱ　研究の視点

研究主題に迫るため、「自己との関わりで考えを深める発問の工夫」、「自他の考えを大切にする話合いの工夫」の２点を研究の視点とし、具体的な指導の工夫について検討・検証を行う。

Ⅲ　研究仮説

発問や話合いなど指導方法を工夫することで、児童は道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるであろう。

Ⅳ　研究構想図

【現状と課題】

国や都の指針などから、道徳科の授業において「考え、議論する道徳」への質的転換が求められている。

児童が自己を否定的に捉えているアンケート結果から、自己を見つめ、自己のよさに気付かせたい。

このことから、「自己を見つめる」ことや「自己の生き方」について考えを深めさせることが課題である。

【研究主題】　自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める児童の育成
～自他の考えを大切にする指導方法の工夫～

【目指す児童の姿】

自己の生活を振り返り、自他の考えを大切にしながら、よりよい自己の生き方について考えようとする姿

【研究の視点】

- 自己との関わりで考えを深める発問の工夫
- 自他の考えを大切にする話合いの工夫

【研究仮説】

発問や話合いなど指導方法を工夫することで、児童は道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるであろう。

【研究内容】

（基礎研究）

・自己との関わりで考えを深める発問について

・自他の考えを大切にする話合いについて

（調査研究）

研究主題、副主題に関わる児童・教師の意識や実態の調査

（実践研究）

発問や話合いなど指導方法の工夫を取り入れた授業を低・中・高学年で行い、その効果を検証する。

【検証方法】

目指す児童の姿と研究の視点に照らし、授業中の教師の発問や児童の活動の様子を分析

授業前後の道徳科の授業に対する児童の意識の変容を分析

Ⅴ　研究内容

１　基礎研究

(1)　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

自己を見つめるためには、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、自己との関わりで考えることが大切である。本研究では、児童の実態を明らかにするための事前アンケートをとり、そこで得られた内容項目に関する児童の実態から発問を構成するようにした。また、多面的・多角的に考えさせる発問や児童の発言に応じた補助発問を検討・分析することで、児童一人一人が自己の考えをもったり、自己との関わりの中で内容項目について考えを深めたりすることとした。

今年度、本研究で実施した教員アンケートでは、「普段の授業づくりの際、特に大切にしていること」（表１）の項目において「発問の工夫」と回答した教員は、81％であった。また、「普段の授業づくりの際、課題と感じていること」（表１）の項目において「発問の工夫」と回答した教員は、55％と最も高い。このことから、教師は普段の道徳科の授業づくりにおいて、発問を工夫することの大切さを感じている。

表１　［本研究実施意識調査，令和３年］

「普段の授業づくりの際、特に大切にしていること」
「普段の授業づくりの際、課題と感じていること」

	特に大切にしていること	課題と感じていること
教材の工夫	52%	13%
発問の工夫	81%	55%
話合いの工夫	23%	49%
書く活動	8%	11%
動作化・役割演技	10%	23%
板書	25%	29%
説話	6%	16%

児童のアンケートにおいて、「道徳の学習を通して、自分の課題や目標を見付けていますか」（図４）の質問項目では31％の児童が否定的な回答をしている。また、「道徳の学習では、自分のこととして考えていますか」（図２）の質問項目では25％の児童が否定的な回答をしている。

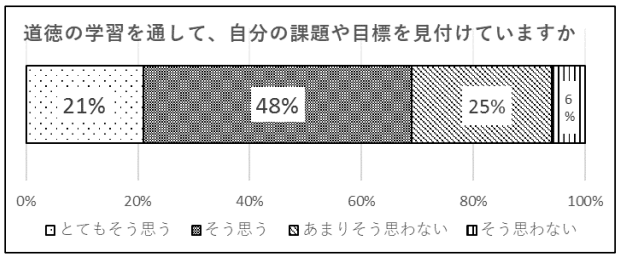


図４［本研究実施意識調査，令和３年］

児童が道徳の授業において自己のこととして考えるためには、道徳的事象に対して、自分自身の問題として受け止め、自己との関わりで考えられるように教師が発問をすることが大切である。

以上のことから、「自己との関わりで考えを深める発問の工夫」として「児童の実態から発問を構成する指導方法」の研究をしていくこととした。

(2)　自他の考えを大切にする話合いの工夫

自己の生き方についての考えを深めるためには、児童一人一人が自分の考えをもち、他の児童との話合いを通して、自己の考えと比較し、新しい考えに気付いたり、自己の考えに確信を得たりして、よりよい自己の考えを導き出していくことが重要であると考えた。そのため、話合い形態の工夫や役割演技・ＩＣＴを活用した意見共有・ハンドサインなどの表現活動の工夫、児童の考えを構造的に示す板書の工夫など、自分や友達の考えを視覚的に捉えられるようにし、自他の考えを大切にするための話合いの工夫を行うこととした。

本研究の児童アンケートでは、「道徳の学習では、友達の考えを聞いて『同じだ』『違う』などと思うことはありますか」（図５）の質問項目において「とてもそう思う」、「そう思う」が 87%、「友達の考えを聞いて『なるほど』や『そういう考えもあるな』や『いいな』などと思うことはありますか」（図６）の質問項目において「とてもそう思う」、「そう思う」と 90%の児童が回答しており、共感したり相違点を見付けたりしている児童が多い。

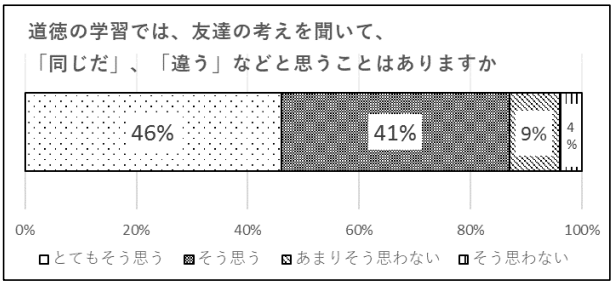


図５　［本研究実施意識調査，令和３年］

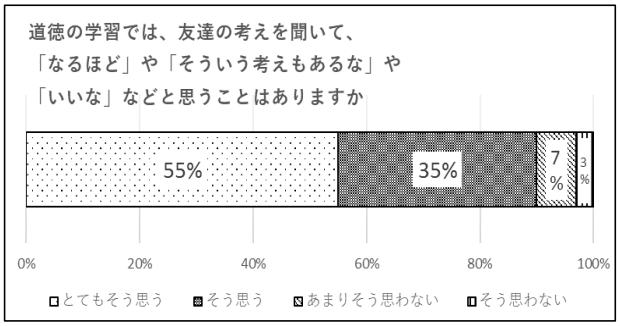


図６　［本研究実施意識調査，令和３年］

「道徳の学習では、自分の考えをもっていますか」（図７）の質問項目において「とてもそう思う」、「そう思う」と 80%が答えている。「道徳の学習では、友達やクラスのみんなに、自分の考えを伝えていますか」（図８）において「とてもそう思う」、「そう思う」が 60%、「あまりそう思わない」、「そう思わない」と 40%が答えた。これらのことから、自分の考えをもっているが、考えを伝えることができない児童が多くいることが分かる。

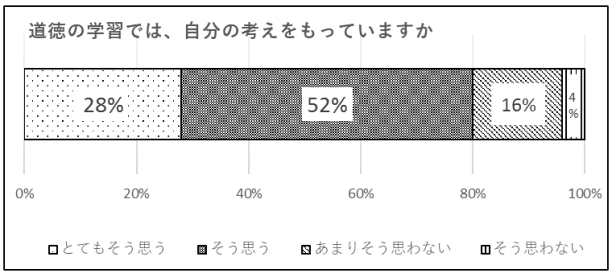


図７　［本研究実施意識調査，令和３年］

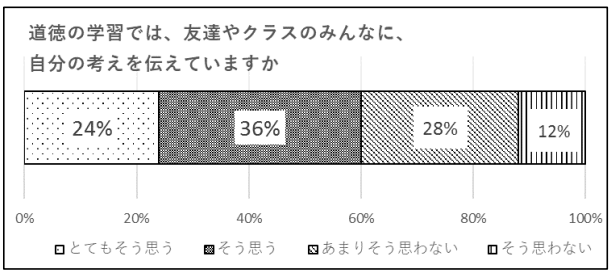


図８　［本研究実施意識調査，令和３年］

多様な感じ方や考え方に接し、自己の感じ方や考え方などを確かに想起し、現在の考えを想起し、深めるためには、考えを聞き合ったり質問し合ったりする話合いが有効である。

以上のことから、「自他の考えを大切にする話合いの工夫」として「物事を多面的・多角的に考えるために話合いの中に視覚化を取り入れた指導方法」を研究することとした。

２　調査研究

(1)　調査目的

道徳の学習における「自己を見つめる」「自己の生き方について考えを深める」「自他の考えを大切にする」に関する児童の意識や実態を調査することにより、研究仮説の根拠を示すとともに、授業における発問や話合いの工夫に生かす。

(2)　調査対象

研究員所属校の児童（第１学年から第６学年まで）に以下のとおり実施した。

都内公立小学校 20 校の児童（令和３年９月上旬実施：1,543 人）

(3)　調査方法　Web アンケートによる調査（全学年共通　選択式）

(4)　調査結果及び考察

ア　「道徳の学習は好きですか」(上段の表)、「道徳の学習で楽しいと思うときはどんなときですか（※複数回答可)」(下段の表）の割合

「道徳の学習は好きですか」			
好き	わりと好き	あまり好きではない	好きではない
29%	45%	19%	７%

「道徳の学習で楽しいと思うときはどんなときですか（※複数回答可)」	
お話を読んだり聞いたりしているとき	69%
登場人物の気持ちを考えているとき	35%
友達の考えを聞いているとき	33%
自分の考えを話しているとき	22%
話し合っているとき	34%
自分のことを考えているとき	21%

○　考察

道徳の授業において「好き」と回答している児童が 74%であった。また、「道徳の学習で楽しいと思うとき」の項目では「お話を読んだり聞いたりしているとき」と回答した児童の割合が最も高く、教材との出合いを楽しみにしている児童が多いことが分かった。

イ　「自分の考えをもっていますか」(上段の表)、「自分の考えを伝えていますか」(下段の表）の割合

「自分の考えをもっていますか」			
とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	そう思わない
28%	52%	16%	４%

「自分の考えを伝えていますか」			
とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	そう思わない
24%	37%	28%	11%

○　考察

「自分の考えをもっている」と回答した児童の割合は 80%であったが、「考えを伝えている」児童は61%であった。このことから、自分の考えをもっていてもあまり伝えていないことが分かる。

ウ　道徳の学習では、「自分のこととして考えていますか」（上段の表）、「自分の課題や目標を見付けていますか」（下段の表）の割合

「自分のこととして考えていますか」			
とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	そう思わない
27%	49%	19%	５%

「自分の課題や目標を見付けていますか」			
とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	そう思わない
21%	48%	25%	６%

エ　「友達の考えを聞いて、同じ、違うと思うことはありますか」（上段の表）、「友達の考えを聞いて、なるほど、そういう考えもある、いいな、などと思うことはありますか」（下段の表）の割合

「友達の考えを聞いて、同じ、違うと思うことはありますか」			
とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	そう思わない
46%	41%	９%	４%

「友達の考えを聞いて、なるほど、そういう考えもある、いいな、などと思うことはありますか」			
とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	そう思わない
55%	36%	７%	２%

○　考察

ウ・エの結果から、「自分のこととして考えている」、「自分の課題や目標を見付けている」児童は約 70%であった。また、友達の考えを聞いて、「同じ、違う」と感じたり、「なるほど、そういう考えもある」と気付いたりしている児童は80%以上であった。このことから、児童は互いに考えを伝える過程で、共感し、相違点を見付けていると考えられる。

(5)　考察のまとめ

・「調査ア」の結果から、教材との出合いを楽しみにしている児童が多い。そこで、教材を通して道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めることができるよう、発問を工夫することで、自己との関わりで考えを深められるようにしていく。

・「調査イ・ウ・エ」の結果から、児童は自分の考えをもち、互いの考えに共感し、相違点を見付けているものの、自分の考えをあまり伝えていないのと捉えられるので、多様な感じ方や考え方に触れることを通して、自分の考えを大切にし、発信できるようにしていく。

３　実践研究

低学年分科会

(1)　指導方法の工夫

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

内容項目に関する事前アンケートでは嘘をついたりごまかしをしたりすることがある児童がいるという実態が分かった。そこで、素直になれない主人公の気持ちを問う発問を構成し自己との関わりで考えを深めていく。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

・友達の表情や考えを捉えやすくするために、座席をコの字型にする。

・自分の考えを意思表示させるために、友達の意見に対して、同意見や付け足し、その他を合図としたハンドサインを活用する。

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

アンケートから児童の課題を把握し、自己との関わりで考えを深めさせるために、コロの素直になれた心情を問う発問構成にしたことは有効であったか。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

ハンドサインを活用することで、自分の考えを意思表示し、可視化させ、自分の考えと比べることができたか。また、意見の同意や付け足しによる自他の考えの共有につながったか。

(3)　検証授業（第２学年）

主題名　「すなおな心で」　Ａ　正直、誠実

教材名　「お月さまとコロ」(「わたしたちの道徳　小学校１・２年生」　文部科学省)

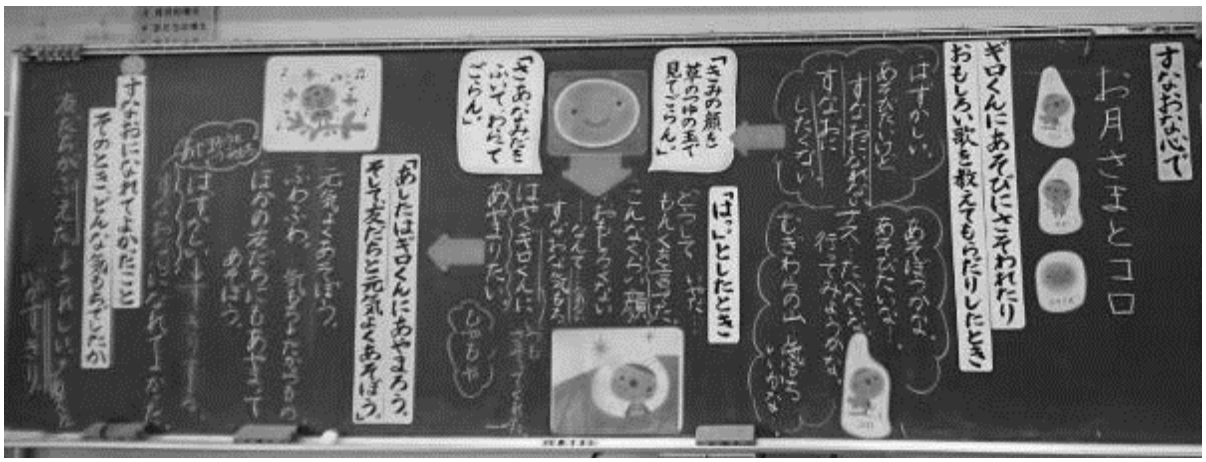
ねらい　伸び伸びと明るい心で過ごすにはどうすればよいかを考えることを通して、自分の気持ちに素直に生活しようとする心情を育てる。

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	◇指導上の留意点　★評価
導入	１　日常の遊びの中で素直になれなかった場面のショートストーリーを視聴する。	◇パペットを使って提示し、学校生活を想起させ、問題意識をもたせる。
展開	２　教材「お月さまとコロ」を視聴し、話し合う。 ○ギロくんに遊びに誘われたり、おもしろい歌を教えてもらったりしたときに、コロはどんなことを思ったでしょう。 ○草のつゆの玉に顔をうつして「はっ。」としたときのコロは、どんな気持ちだったのでしょう。 ◎「明日はギロくんにあやまろう。そして、友だちと元気よくあそぼう。」と心に決めたコロは、どんな気持	◇教材を電子黒板に映し視聴させる。 ◇素直に言えず、意地を張ってしまうコロの気持ちに共感させ、人間理解を深める。 ◇問い返しをすることで登場人物の心情に向き合わせ考えを深める。 ◇近くの友達と自分の考えを話し合い、その後全体で共有することで、考えを広げたり深めたりさせる。 ★ギロに謝ろうと決めたことで、明るく素直な気持ちになり、自分の気持ちをごまかさ

	ちだったでしょう。 3　自分の生活を振り返る。 ○素直になれてよかったことはどんなことですか。そのとき、どのような気持ちでしたか。	ずに伝えようとすることを考えている。 （発言、表情） ★自分自身を振り返ることを通して、これからも素直に生活しようと気付き考えている。　（ワークシート、発言）
終末	4　教師の説話を聞く。	◇のびのびと明るい心で素直に生活しようとする気持ちのよさを感じさせるようにする。

板書



(4)　成果と課題

ア　成果

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

アンケートの実態を受け、コロの素直になれた心情を問う発問を構成したことで、児童が共感しやすく、ねらいに近付くための考えを引き出すことができ、有効であった。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

ハンドサインを用いて、自分の考えを可視化して伝えたり、友達の考えに付け足したりできるようにしたことで、自他の考えを明確に捉えることができた。

イ　課題

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

意図的な声掛けや問い返しをして、児童の考えを引き出すことで、コロの素直になれたときの気持ちに、より共感させることができたのではないか。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

児童の発言後、ハンドサインから考えを見取ったり、広げたりするとともに、他の児童との交流場面を設定することで話合いを深める必要があった。

中学年分科会

(1)　指導方法の工夫

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

事前アンケートから、友達のことを大切に思っているが、思ったことを伝えられていない児童がいるという実態から、児童に友達との関わりに関する問題意識をもたせる。さらに、友達にとってよいと思うことを考え、伝える大切さに気付けるよう発問を構成する。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

物事を多面的・多角的に考え、多様な意見から考えを深められるよう、登場人物の「なかよし」に対する考え方の違いを対比し、視覚化して構造的に板書する。

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

事前アンケートから児童の課題を把握し、問題意識をもたせ、大切な友達だからこそよいと思うことを伝える大切さについて気付かせる発問構成にしたことは有効であったか。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

「なかよし」に対する登場人物の考えの違いを対比して板書したことは、児童の考えを整理、視覚化し、自他の考えを大切にして話し合うために有効であったか。

(3)　検証授業（第３学年）

主題名　「なかよしだからこそ」　Ｂ　友情、信頼

教材名　「なかよしだから」（「新しいどうとく３」東京書籍）

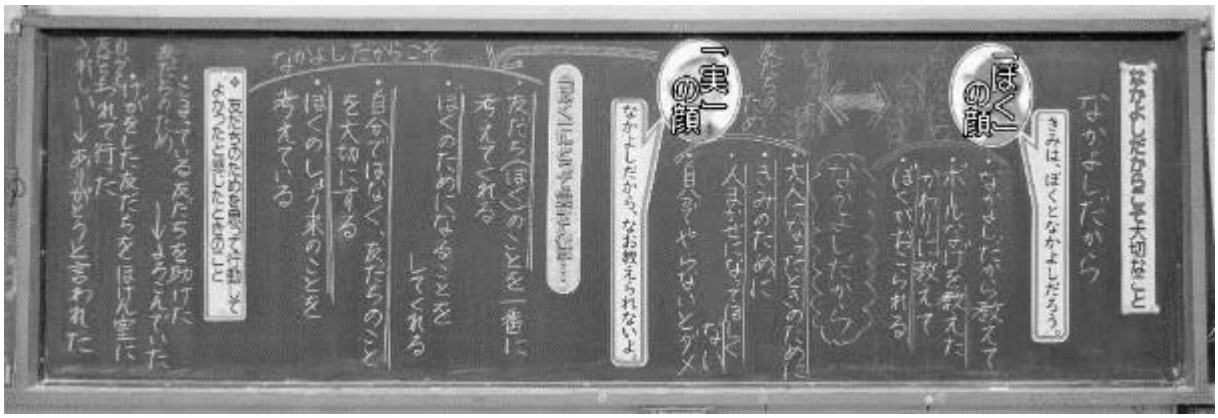
ねらい　友達の立場に立ってよりよい友達関係の在り方について考え、友達を大切にしようとする態度を育てる。

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	◇指導上の留意点　★評価
導入	１　内容項目に関わるアンケートの結果を知り、主題に関わる問題意識をもつ。	◇友達に思ったことを伝えられていない児童がいるという実態から、友達との関わりに関する問題意識をもたせる。
展開	２　教材「なかよしだから」を読んで話し合う。 ○宿題を忘れたぼくは、どんなことを考えたでしょう。 ○「ぼく」は、どのような思いから「きみは、ぼくとなかよしだろう。」と言ったのでしょう。また、実さんは、どのような思いから「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのでしょう。 ◎「ぼく」にとって実さんは、どのような友達でしょう。	◇「ぼく」の友達との関わりに、自分本位な考え方があることに気付かせる。 ◇役割演技を行い、「なかよし」に関する考えを多様に引き出す。 ◇「ぼく」と実さんの考えの違いを対比して板書し、視覚化することで話合いを深められるようにする。

	3　自分自身を振り返って考える。 ○友達のためを思って行動してよかったと感じたのは、どのようなときですか。	★友達との関わりについて振り返り、よりよい関係の在り方について自分との関わりで考えている。　（ワークシート）
終末	4　教師の説話を聞く。	◇友達だからこそ、よいと思うことを伝える大切さを感じられるようにする。

板書



(1)　成果と課題

ア　成果

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

事前アンケートから児童の課題を把握し、友達だからこそ大切にするべきことについて問題意識をもたせる発問構成にしたことで、友達との関わりについて自分のこととして考えを深めさせることができた。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

登場人物の考えの違いを対比して板書し視覚化したことで、登場人物の考えの相違点を見付けたり、受け止めたりしながら発言する様子が見られた。板書の内容を厳選し構造化したことは、自他の考えを大切にする話合いとして有効であった。

イ　課題

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

・導入において、内容項目に関するアンケート結果の紹介を行ったが、気が付いたことなどを話し合い、より自分のこととして問題意識をもたせる必要があった。

・中心的な発問で友達だからこそ大切にするべきことを話し合わせた上で振り返りを行う必要があった。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

中心的な発問で、友達だからこそ大切にするべきことについての考えをより深めさせるために、発言することが苦手な児童も自分の意見を表出できるよう、板書の構造化だけではなく、少人数での意見交流やハンドサインなど、多様な指導方法で自他の考えを大切にする話合いの工夫に取り組む必要があった。

高学年Ａ分科会

(1)　指導方法の工夫

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

学習の主題についての事前のアンケート結果を共有し、他国の人々や文化について考え続ける一貫性のある発問を構成する。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

ＩＣＴを活用し、各自の画面上で自他の考えを共有したり比較したりして主題に関わる話合い活動を設定する。

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

児童の意見を基に学習テーマを設定し、国際親善に対する思いを考えさせたことは有効であったか。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

ＩＣＴを活用することで、児童一人一人の視点で、過去の事象とこれまでつながってきた人々の思いについて、多面的・多角的に捉えたことを話し合い、それぞれの考えを深める活動は、主題に迫る活動として、有効であったか。

(3)　検証授業（第６学年）

主題名　「世界の人と手を取り合って」　Ｃ　国際理解、国際親善

教材名　「エルトゥールル号－友好の始まり」

（「道徳６　きみがいちばんひかるとき」光村図書）

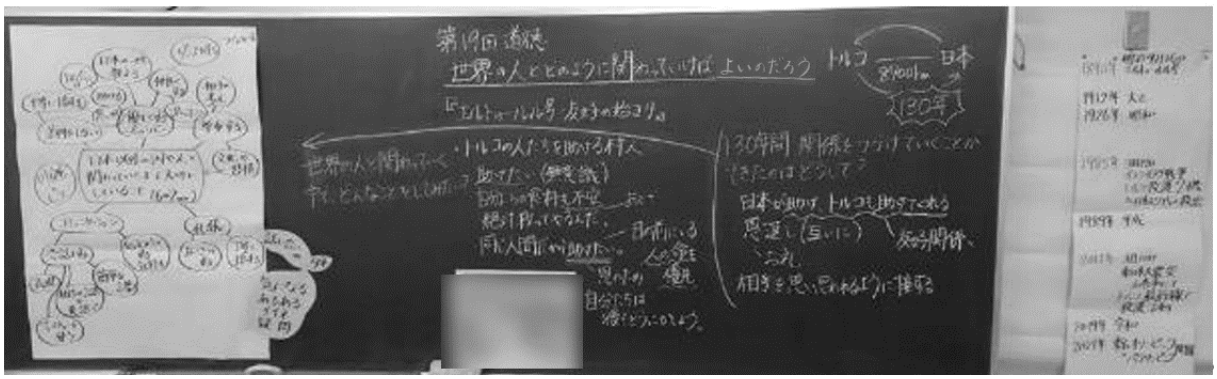
ねらい　日本とトルコの友好について知り、他国との関係の在り方を考え、国際親善に努めようとする態度を育てる。

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	◇指導上の留意点　★評価
導入	１　国際親善についての児童のアンケート結果を知り、主題に関わる問題意識をもつ。 ○日本以外の国や人と関わっていく上で、自分が大切にしていることはありますか。 世界の人とどのように関わっていけばよいのだろう	◇国際親善についてのよさや課題をウェビングにしてまとめ、自分たちの意見から共通の学習テーマを作る。
展開	２　教材「エルトゥールル号－友好の始まり」を聞き、話し合う。 ○村人たちはどんな思いで手当てをしていたのでしょう。 ◎130年もの間、関係を続けていくことができたのはどうしてでしょう。	◇話し合いたいことを最初に児童に聞いて、それに沿って発問するようにする。 ◇２国間の130年の友好について年表で押さえる。 ◇日本とトルコの歴史的背景を踏まえた上で考えさせる。 ★二国間の友好がどうして続い

	３　自分自身を見つめる。 ○世界の人たちと関わっていく中で、どんなことをしてみたいと思いますか。それはどうしてですか。	てきたのか考えている。 （ワークシート、発言） ◇ＩＣＴを活用し、各自が画面上で互いの意見を共有したり比較したりできるようにする。 ◇導入で設定した問いに対して考えられるようにする。
終末	４　教師の説話を聞く。	◇国際親善の様子を捉えられるようにする。

板書



(4)　成果と課題

ア　成果

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

・導入でアンケート結果を示し、国際親善に対する思いを共有したことで、問題意識をもちやすくなった。また、児童の意見から学習テーマを設けていくことで、学習への関わり方や問題意識のもち方がこれまでと異なり、児童が更に意欲的に考え、学習テーマに対する自分の考えを深めることができた。

・授業を通して一貫した学習テーマを設けることで、児童が国際親善に努める上で大切にしたいことに気付き、国際親善に対する自分の考えをもつことに有効であった。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

ＩＣＴを活用してそれぞれの意見を各自の画面上で表したことで、考えを述べることが苦手な児童にとっては意見を表出しやすくなり、一人一人の意見を共有して、比較したりつなげたりして検討する活動は主題に迫る話合い活動として有効であった。

イ　課題

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

自分自身を見つめる場面では、道徳的価値の理解を更に深めるために、児童からの意見を取り上げ、全体で共有し、他の児童の意見を求める発問の工夫が必要である。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

自他の考えを大切にするためにも、児童一人一人の意見に対して、児童同士が意見を伝え合えるように、更に話合い活動を工夫することが課題である。

高学年Ｂ分科会

(1)　指導方法の工夫

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

事前アンケートから、家族がどのように自分のことを思っているのか分からないという実態が明らかになった。そのため、中心的な発問を母の思いを問う発問にし、母の思いを十分に考えられるようにする。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

・ＩＣＴを活用して、児童一人一人の考えを画面上に共有し、他者の考えと比較した上で話合いを行う。

・話し合った内容を視覚的に整理し、構造的に板書する。

(2)　検証の視点及び方法

ア　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

事前アンケートの結果から、母の思いについて考えることを中心的な発問に設定したことは児童が自己との関わりで考えを深めていくために有効であったか。

イ　自他の考えを大切にする話合いの工夫

・ＩＣＴを活用して話合いをすることで、自分の考えを表出しやすくし、他者の考えと比較し、新しい考えに気付いたり自分の考えに確信を得たりして、自分の考えを構築することができたか。

・話し合った内容を視覚的に整理し、構造的に板書していくことは考えを深めていくために有効であったか。

(3)　検証授業（第６学年）

主題名　「家族の思いを受け止めて」　Ｃ 家族愛、家庭生活の充実

教材名　「志を得ざれば、再びこの地を踏まず ―野口英世と母シカの物語―」

（「小学道徳６ はばたこう明日へ」教育出版）

ねらい　支えてくれている家族の思いに気付き、家族の思いを受け止めて自分にできることをしていこうとする心情を育てる。

学習指導過程

	学習活動（○発問　◎中心的な発問）	◇指導上の留意点　★評価
導入	１　家族愛についてのアンケート結果を知る。	◇アンケート結果を全体で共有することにより、価値への導入を図る。
展開	２　教材「志を得ざれば、再びこの地を踏まず ―野口英世と母シカの物語―」を聞き、話し合う。 ○母シカは英世をどんな思いで育てていたのでしょう。 ◎母シカはどのような思いで、「アメリカへ帰りなさい。」と英世に伝えたのでしょう。	◇プレゼンテーションソフトで教材提示を行う。 ◇英世を立派に育てるために、身を粉にして頑張る母シカの思いを捉える。 ◇英世の将来を思い、葛藤がありながらもアメリカへ送り出そうとする母の気持ちを押さえる。 ◇ＩＣＴを活用して他者の考えと比較

	○アメリカへ帰った英世は、どのような気持ちで研究に打ち込んでいたのでしょう。 3　自分の生活を振り返って考える。 ・今日の学習を振り返って、家族との関わりについて感じたことや考えたことを書きましょう。	し、話合いを行う。 ★母の息子に対する思いを多面的・多角的に考えられたか。（発言、話合い） ◇母の思いを受けて、自分にできることをしようとする気持ちを押さえる。 ★家族について振り返り、家族のために自分ができることについて自己との関わりで考えられたか。（道徳ノート）
終末	4　教師の説話を聞く。	◇家族愛についての理解を深められるようにする。

板書

(4)　成果と課題

ア　成果

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

アンケート結果を基に発問を構成したことにより、家族の思いについて、自己との関わりで考えを深めていくことができた。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

・ＩＣＴを活用したことで、他者の考えと比較し、新しい考えに気付いたり、自分の考えに確信を得たりして、考えを構築することができた。

・児童の考えを整理し構造的な板書に示したことは、自分や他者の考えに触れて自分の考えを再構築することにつながり、自己の生き方について考えを深めることができた。

イ　課題

【自己との関わりで考えを深める発問の工夫】

事前アンケートの結果から、母に焦点を当てた発問構成を考えたが、アンケート結果を提示した上で児童と共に考えたいテーマを設定する活動を入れると、より自己との関わりで考えることができたのではないか。

【自他の考えを大切にする話合いの工夫】

ＩＣＴを活用することで多様な意見に触れることはできるが、互いの思いを話し合ったり、質問したりし合うような十分な交流にはならなかった。自己を見つめるためには、児童同士の交流による話合い活動のよさを実感させることが必要である。

Ⅵ　成果と課題

１　自己との関わりで考えを深める発問の工夫

ワークシートの記述や発言内容から、よりよい自己の生き方について考えようとする児童の姿が見られた。これは、アンケート等から児童の実態を把握したことで、児童が考える必然性をもって学習に取り組むことができたからである。このことから、自己との関わりで考えを深めるためには、事前アンケートを活用して発問を構成したり、児童に問題意識をもたせる発問の工夫をしたりすることは有効であったと言える。

一方、自己の生き方についてより実感をもたせて考えを深めるには更なる改善が必要である。アンケート結果から気付いたことを共有したり、児童と共に考えたいテーマを設定したりする活動を入れることや、児童との考えの共有の時間を確保し、自分自身をより見つめるようにするなど更なる指導の工夫が必要である。

２　自他の考えを大切にする話合いの工夫

ワークシートの記述や発言内容から、他の児童との話合いを通して自己の考えと比較し、よりよい自己の考えを導き出していこうとする児童の姿が見られた。これは、自他の考えを大切にする話合いの工夫をすることで、児童が多様な感じ方や考え方に接して、新しい考えに気付いたり、自己の考えに確信を得たりすることができたからである。このことから、ＩＣＴを活用した意見の共有やハンドサインによる児童の意思表示、児童の思考を表出する手段としての役割演技や板書の構造化などの児童の話合いを視覚化することは有効であったと言える。

一方、児童同士の話合いについては、自他の考えを大切にした上で、自分の考えを深めたり広めたりするために、他者の意見について共感できるような話合いの工夫や、考える時間を十分に確保することが必要である。

令和３年度　教育研究員名簿

小学校・特別の教科　道徳

低学年分科会

学　校　名	職　名	氏　名
千代田区立富士見小学校	主任教諭	菅原　敏文
荒川区立峡田小学校	主任教諭	鈴木　貴代美
八王子市立第四小学校	主任教諭	伊東　恵美
小金井市立東小学校	主任教諭	内田　調
小平市立小平第五小学校	主任教諭	○鈴木　勇真
東大和市立第二小学校	主任教諭	岡部　伸秀

中学年分科会

学　校　名	職　名	氏　名
新宿区立戸山小学校	主任教諭	髙松　和
中野区立鷺宮小学校	主任教諭	佐伯　純
杉並区立八成小学校	主任教諭	○富樫　莉恵子
練馬区立大泉学園桜小学校	主任教諭	荒畑　聡美

高学年Ａ分科会

学　校　名	職　名	氏　名
文京区立湯島小学校	主幹教諭	池神　里絵
台東区立蔵前小学校	主任教諭	福澤　和宏
渋谷区立神南小学校	主任教諭	野村　美里
江戸川区立新田小学校	主幹教諭	◎村野　拓也
日野市立日野第七小学校	主任教諭	○佐藤　淳一

高学年Ｂ分科会

学　校　名	職　名	氏　名
江東区立豊洲北小学校	主任教諭	大塚　由香
杉並区立桃井第四小学校	主任教諭	増田　有紀
杉並区立浜田山小学校	主任教諭	宮本　翔平
江戸川区立西小松川小学校	教諭	山下　美帆
町田市立町田第一小学校	主任教諭	○福島　清徳

◎　世話人　○　副世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　長島　寛和

令和3年度

教育研究員研究報告書
小学校・特別の教科　道徳

令和４年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９